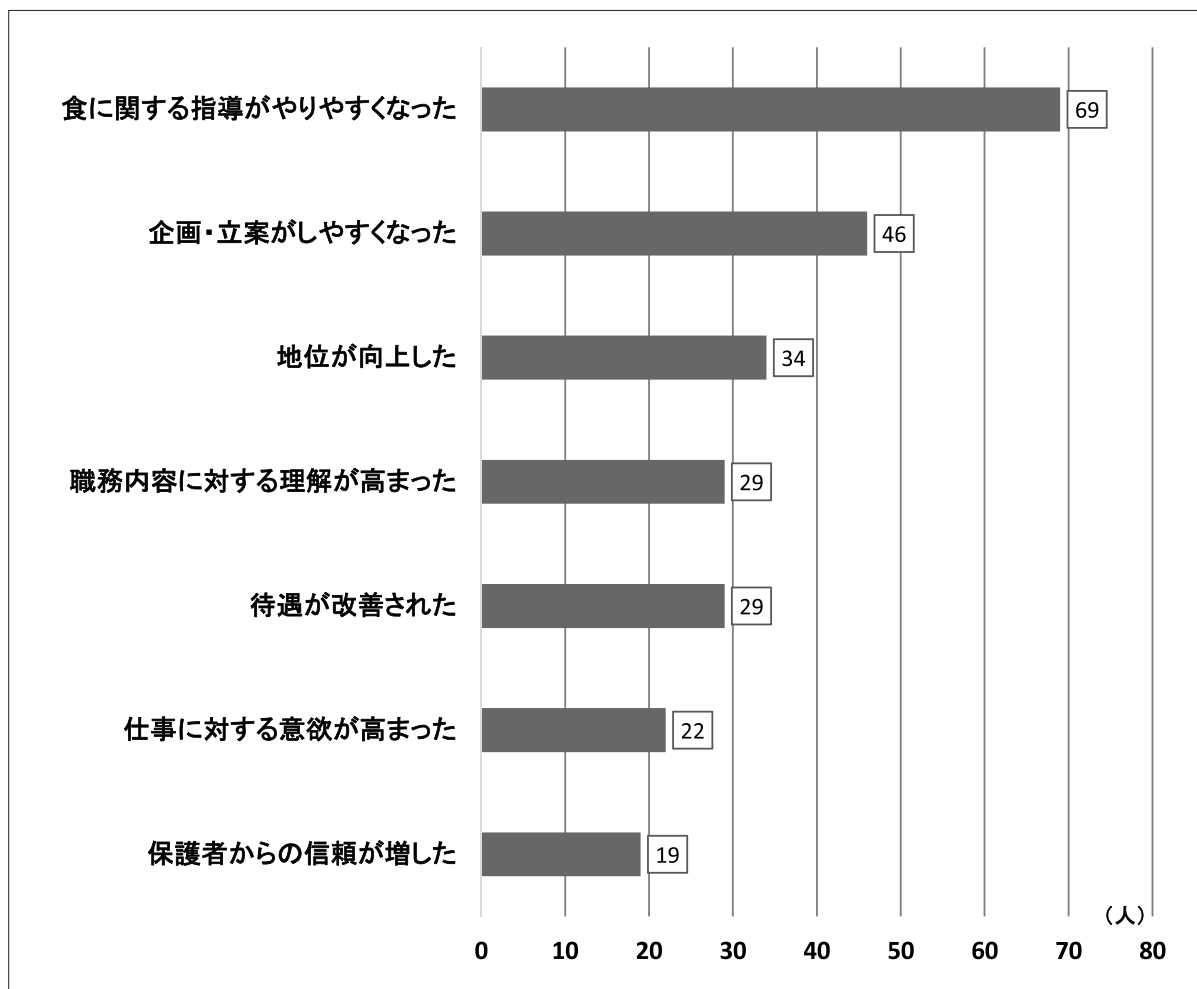


## 〈専門委員会栄養教職員部アンケート調査結果〉

### I 栄養教諭としての活動について

1 学校栄養職員から栄養教諭となって良かったことは何ですか。(複数回答) n=83



### 考 察

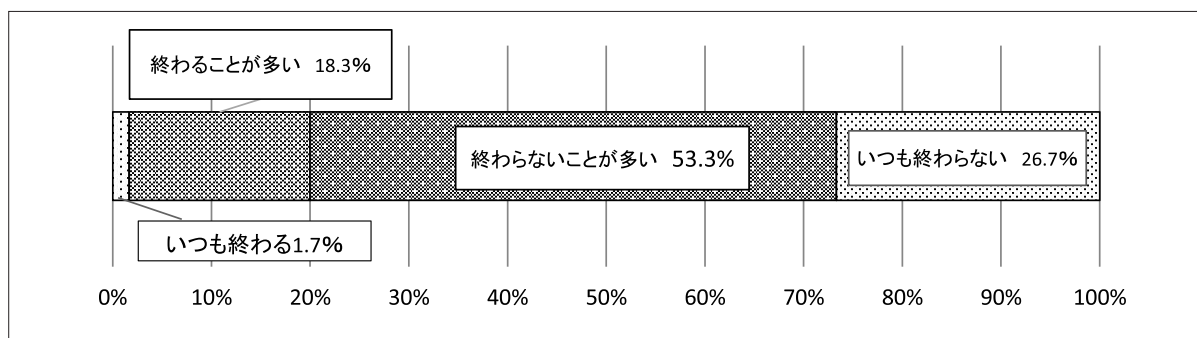
「学校栄養職員から栄養教諭となって良かったこと」についての調査では、主に「食に関する指導がやりやすくなった」「企画・立案がしやすくなった」と感じている栄養教諭が多い。また、「地位が向上した」「職務内容に対する理解が高まった」と感じている栄養教諭も昨年度より増加しており、活躍の場が広がっている様子がうかがえる。

児童生徒の実態を把握し、毎日の学校給食を生きた教材として活用し、食に関する指導全体計画に基づき教科・領域を横断した指導や、個に応じた指導を推進できることは、栄養教諭が配置されることの大きなメリットといえる。

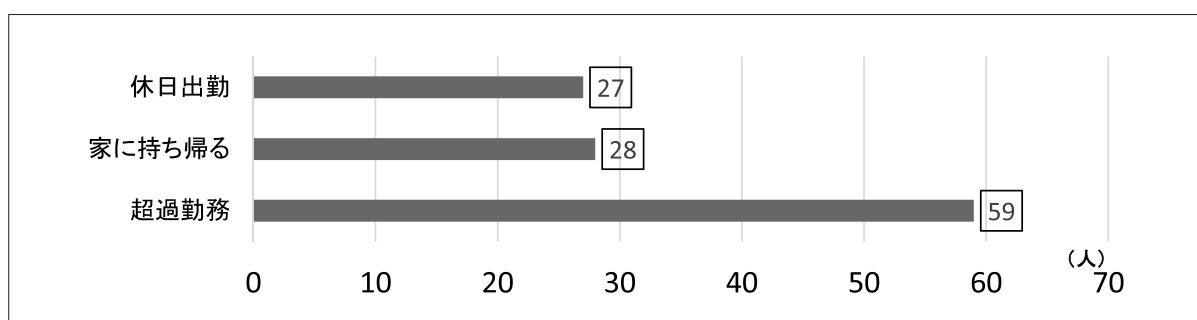
また、学校給食における食物アレルギー対応や、肥満・痩身・スポーツをする児童生徒への個別指導など高度な専門性へのニーズもますます増加している。栄養教諭としての使命感をもって、資質・能力の向上に努めることが求められる。

## Ⅱ 学校栄養職員を対象とした勤務状況について

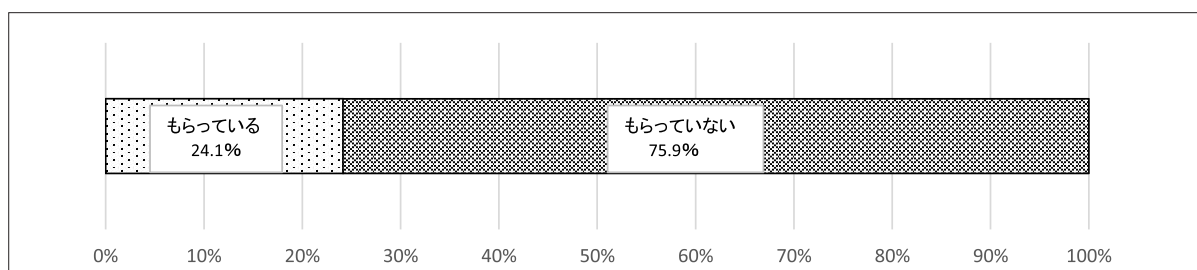
### 1 仕事は勤務時間内に終わりますか。 n = 83



### 2 勤務時間に終わらない仕事はどうしていますか。(複数回答) n = 83



### 3 超過勤務手当は実績どおりに支給されていますか。 n = 83

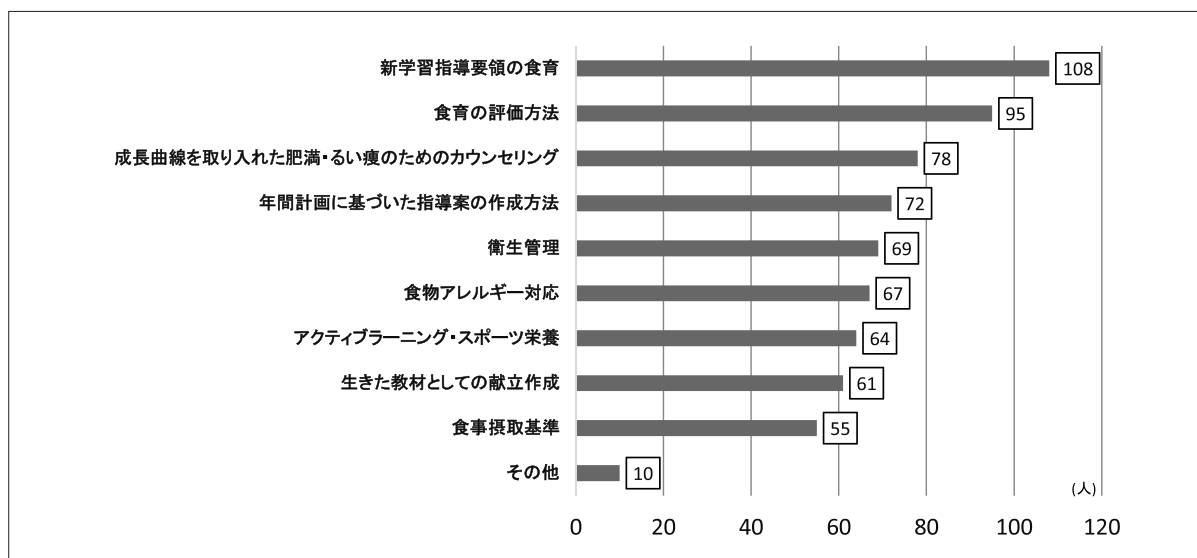


## 考 察

学校栄養職員の勤務状況についての調査では、勤務時間内に仕事が「いつも終わらない」「終わらないことが多い」と答えた人は、昨年度の86.9%より6.9ポイント減少したものの全体の80%であった。勤務が終わらない理由として、食物アレルギー対応や給食関係書類作成等の業務から、電話・来客対応の雑務まであげられ、確実に仕事量が増加している。そのため、勤務時間内に終わらない仕事は、時間外勤務や休日出勤で対応せざるを得ない。「超過勤務手当が実績どおりに支給されていない」と回答した割合は75.9%であり、超過勤務手当の支給については仕事量に見合うように改善する必要がある。

### Ⅲ 栄養教諭・学校栄養職員の研修希望について

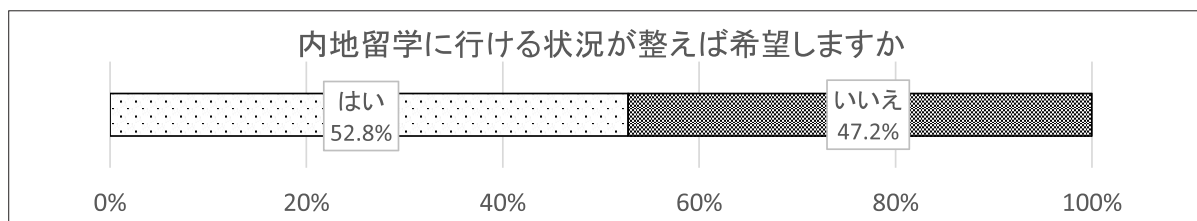
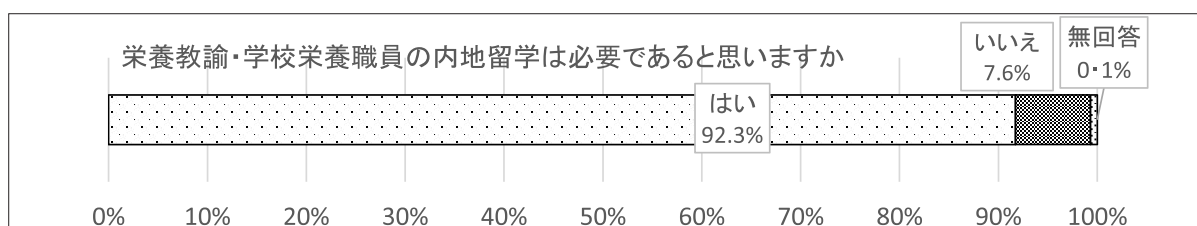
#### 1 どんな研修を希望しますか。(複数回答) n=144



#### 考 察

新学習指導要領の食育や食育の評価方法、年間計画に基づいた指導案の作成についての研修を望む声が多い。ニーズに合わせたより高度な専門知識を習得し、食に関する指導の充実を図りたいと考えている会員が多いことがうかがえる。また、成長曲線を取り入れた肥満・るい瘦のためのカウンセリング研修や食物アレルギー対応など、個別指導に対応していくための知識や情報を得る機会や、安全安心な給食を提供するために衛生管理に関する研修を望む声が多い。総合教育センターの専門研修等で、これらの研修が行われることが望まれる。

#### 2 内地留学について n=144



#### 考 察

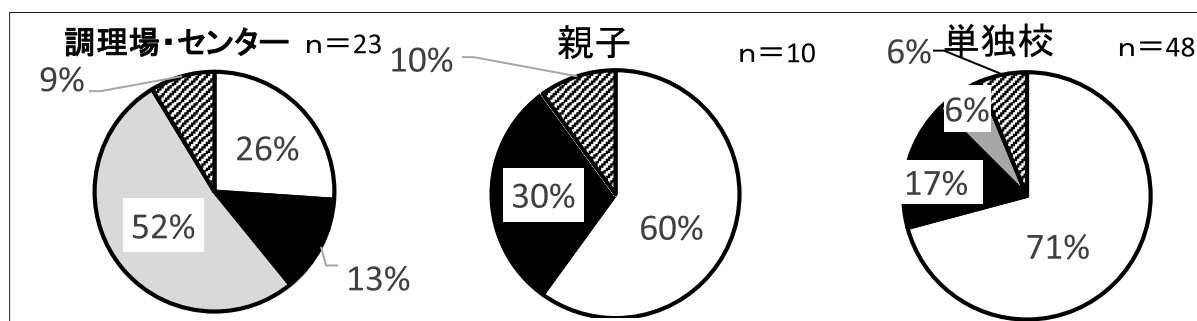
意識調査では92.3%の人が内地留学が必要であると回答しており、状況が整えば希望すると答えた人も半数を超えている。さらなる食育を推進、充実させるために、指導的立場の栄養教諭の育成だけでなく、学校栄養職員による指導者の育成が望まれている。内地留学については、栄養教職員が派遣対象であることを関係機関に周知させ、早急に派遣されることが望まれる。内地留学者が、最新の教育情報を得て、それを広めることにより、県全体の食育のレベル向上が期待できる。

## IV 教職員評価制度についての考え

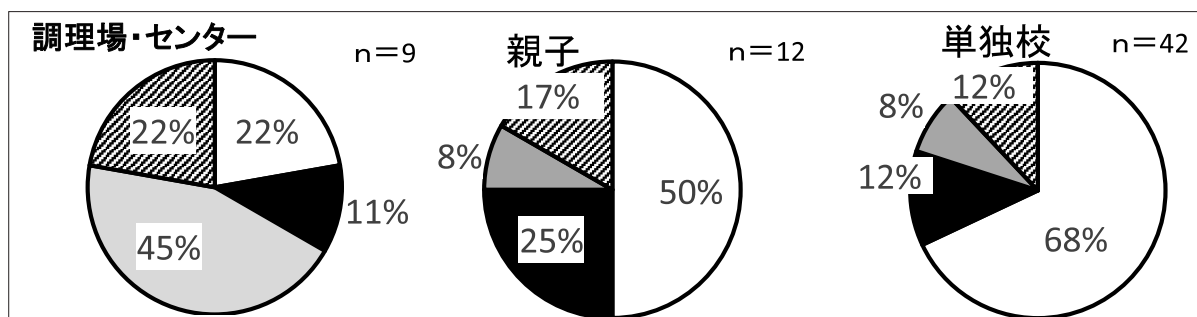
### 1 職務内容について理解していると思う人

	①所属校の学校長
	②所属校の教頭（副校長）
	③所属する調理場長・センター長
	④市町教育委員会で学校給食や食育関係を担当する部署の管理職
	⑤教育事務所で学校給食や食育関係を担当する部署の管理職
	⑥その他

#### ★栄養教諭



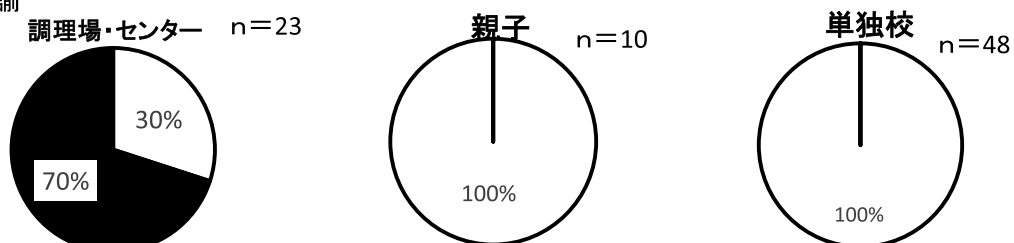
#### ★学校栄養職員



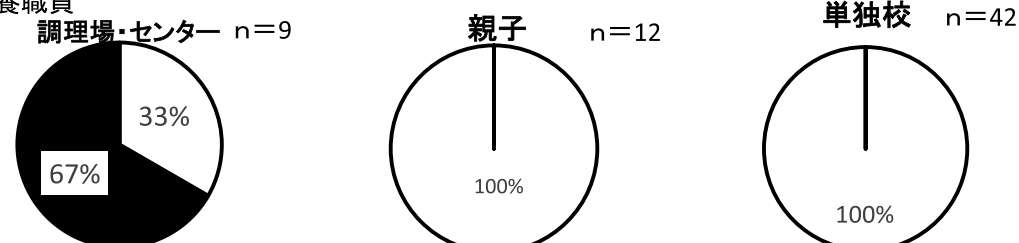
### 2 第1次評価者は誰だったか

	①教頭（副校長）
	②調理場長・センター長

#### ★栄養教諭



#### ★学校栄養職員

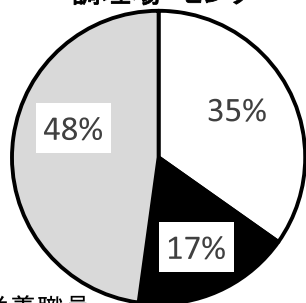


### 3 評価者は栄養教職員の職務の特殊性を理解して評価したと思うか

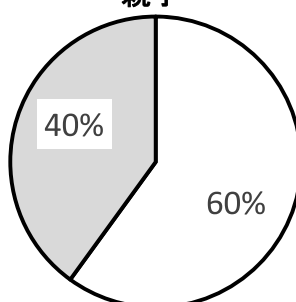
	①はい
	②いいえ
	③分からない

#### ★栄養教諭

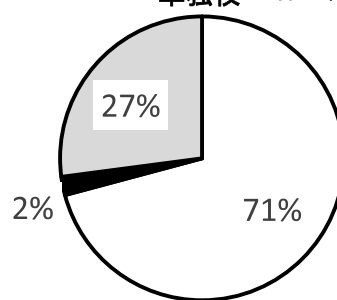
調理場・センター n=23



親子 n=10

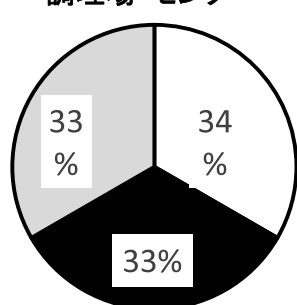


単独校 n=48

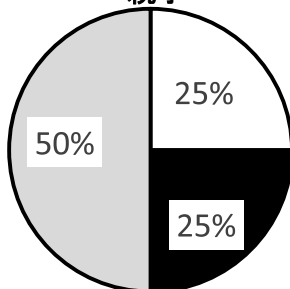


#### ★学校栄養職員

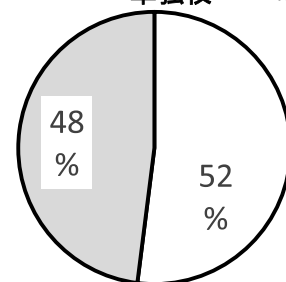
調理場・センター n=9



親子 n=12



単独校 n=42



### 考 察

昨年度実施したアンケートでは、職種による区別がないため正当な評価が得られないのではないかと不安に思っている栄養教職員が多数いることが分かった。また、調理場・センター勤務者は第1次評価者がいつも一緒に仕事をしている場長やセンター長ではなく、教頭（副校長）の方もいるなど、さらに不安に思う栄養教職員がいる。これらのことから、今年度は、「職務内容を最も理解していると思う人は誰か」「第1次評価者は誰だったか」「評価者は栄養教職員の特殊性を理解して評価したと思うか」の3つに絞ってアンケートを取った。それによると、自分の職務内容を最も理解している人は、いつも一緒に仕事をしている校長や教頭（副校長）、センター長や調理場長であることが分かった。また、第1次評価者は単独校は全員が教頭であったが、調理場・センター勤務者の中には場長やセンター長でなく教頭（副校長）の方もいることが分かった。

私たち栄養教職員は、配置状況や職務内容が多種多様である。そのため、教職員評価制度の評価方法が、誰もが納得できるものであること、さらに、より公正・公平な評価となるよう、評価者研修の充実、評価者の職務への理解度を高めることが必要である。特に、現在行われていない市町職員であるセンター長・調理場長への教職員評価制度の評価方法の周知徹底が重要である。